

令和2年度 鳥取県自治会連合会からの要望に対する回答

番号	項目	要望内容	区分	県所管部課	回答
1	町内会・自治会等地縁組織の地域社会における役割について (鳥取県自治会連合会)	<p>自治会は、世帯を単位として組織されているが、情報化を基盤とする日常生活の利便性の向上と少子高齢化は小規模世帯の急増をもたらすとともに、個人主義が進行し、自治会への理解や関心が薄まることとなった。また、昨今の働き方改革における就業者の高齢化も自治会活動の弱体化を加速させる懸念がある。</p> <p>今日の住民の生活領域では、地縁による関係は限られたものとなっているが、それでも地域の利便性、快適性、安全性等を高めるために、問題点を取り上げ、議論して、より多くの住民が満足できるように協力し合うことが必要である。また、現在の生活が公共的な対処を必要とするライフラインにつながり、ごみ処理から街路灯の維持管理、公園や水路、家周辺の清掃など、住民の組織的な参加が欠かせないのは明らかである。そういう行政と住民が担う役割の関係を含めて、自治会は継続的に行政との接点を持つ唯一包括的な組織である。そして、今後一層進む少子高齢化社会にあり、孤独死の防止や認知症住民の徘徊、見守り、子供の安全、空き地空き家の管理など、多様で深刻な課題も生まれてきている。</p> <p>自治会が今日、果たすべき役割の重要性を鑑み、住民や自治体の一層の理解と協力の促進が図られ、地域に必要な組織として、明確に位置付けられるよう施策の推進及び規定等の制定を国に要望しております。</p> <p>つきましては、鳥取県におかれまして上記について、国への働きかけ等の支援をお願いします。また、鳥取県自治連合会が鳥取市・倉吉市・米子市のみの加盟となっており、組織力強化が長年の課題となっておりますので、他自治体の加盟等についてもご協力をお願いします。</p>	新規	地域づくり推進部 (市町村課)	<p>住民に一番身近で共助を果たしている自治会等住民自治組織は、地域社会を維持形成していくために極めて重要な存在であると理解しています。また、自治会等住民自治組織による地域づくりの意義や成果について県民の皆さんの理解を深め、参加を促進していく上で、県連合会の果たす役割も大きいと認識しています。</p> <p>県では、引き続き住民自治組織及びその代表者に対する表彰や各種イベントを通じて、住民自治組織による地域づくりの意義や成果について、県民や未加盟団体への理解を深めていきたいと考えています。</p>
2	鳥取県自治会連合会への財政的支援について (鳥取県自治会連合会)	<p>県内の自治会を取り巻く社会環境は、人口減少、過疎化、少子高齢化、役員の高齢化、担い手不足、空き家の増加など、課題が複雑、多様化してきており、単一自治会だけでは課題解決は難しく、広域的に連携した組織で課題を共有して、その改善策を見出したり、行政と協働して解決策を求めていく必要がある。</p> <p>鳥取県自治会連合会は、鳥取市、倉吉市、米子市の3市連合会のみが加盟しており、組織の拡充を最重要課題と位置づけて、未加入市町村の自治連合組織に対しての加入勧奨を進めている。また本会は、中四国自治会連絡協議会や全国自治会連合会につながる組織でもあり、全国的な社会情勢の変化や改善に向けた取組の先進事例などを情報共有しながら、組織強化に努めている。</p> <p>自治会の課題は、行政課題でもあり、住民が安心・安全に暮らし続けられる地域を作ることは共通の願いである。県内の未加入の自治連合組織も含めた県全体の自治会組織が、将来的にも活動し続けられるような取組を、行政とともに広域的に考える本会の役割は非常に重要である。</p> <p>つきましては、本会の財政基盤の確立に向け、引き続きご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。</p>	新規	地域づくり推進部 (市町村課)	<p>市町村が行う自治会等住民自治組織への支援経費については、市町村創生交付金の対象としているところであり、加入自治組織の負担金にも活用されるよう各市町村とも御協議ください。</p> <p>なお、地域活性化のための主体的な取組については、令和新时代創造県民運動推進補助金の制度もありますので、活用を御検討ください。</p>

番号	項目	要望内容	区分	県所管部課	回答
3	駒馳山バイパスインターチェンジの増設について (鳥取市自治連合会)	<p>観光シーズンになると鳥取砂丘周辺道の利用者増加に伴い、度々交通渋滞が発生しています。</p> <p>現在、山陰道鳥取西ICから駒馳山バイパスまでの接続、南北線ルート設置が決定し、山陰近畿自動車道早期全線開通の方向が見えてきました。山陰海岸国立公園を代表し、山陰海岸ジオパーク屈指のジオエリアである鳥取砂丘の観光振興上、交通渋滞対策の強化を図ることは、重要な位置づけを成しています。又、災害時対策、山陰東部地域発展の為に重要課題であり、駒馳山バイパス福部IC～大谷IC間に新たなインターチェンジを整備することについて、南北線設置と並行し、検討していただきますよう、継続して要望します。</p>	継続	県土整備部 (道路企画課、道路建設課)	<p>観光シーズンにおける鳥取砂丘周辺の渋滞については、鳥取市及び県をはじめとする関係者で臨時駐車場を開設するなどの対策を実施していますが、ピーク時の駐車場不足が渋滞発生の一因の一つと考えられることから、駐車場の確保についても併せて議論することが必要だと考えております。</p> <p>駒馳山バイパス福部IC～大谷IC間の新たなインターチェンジの整備については、まちづくりの観点からの活用について鳥取市や国土交通省と連携して検討していきたいと考えています。</p>
4	地域医療体制の充実について (倉吉市自治公民館連合会)	<p>県立厚生病院を中心とした中部の医療体制の充実に取り組んでいただいているところでありますが、中部圏域で分娩できる医療機関が2施設、小児科の入院施設が1施設などの現状や、交通事故等の際に救急医療を受けるため、県東西部や兵庫県内の病院に搬送されることも多い現状を鑑み、県中部圏域における小児救急医療をはじめとする、救急医療及び周産期の医療体制の整備・運営等の充実強化が必要だと考えます。</p> <p>つきましては、子どもから高齢者までの全ての住民が、安心して生活し、必要時に適切な医療を県中部圏域で受けることができるよう、また、特に人口減少が進む中、出生数を確保していくためには安心して子どもを産み育てられる産科・小児科の医療体制の構築が重要であるため、引き続き中部地区の中核的医療機関である県立厚生病院を中心として、中部地区の医療体制の充実を図っていただくよう要望します。</p>	継続	福祉保健部 (医療政策課) 病院局 (総務課)	<p>県としては、これまでも医療スタッフの確保や医療機関の施設設備整備への支援を進めてきたところであり、平成30年4月に策定した保健医療計画及び令和2年3月に策定した医師確保計画に基づき、引き続き、小児医療、周産期医療等の医療提供体制の構築のための取組を進めてまいります。</p> <p>また、産科、小児科、救急科、精神科の特定診療科に勤務する医師については、医師免許取得後、県職員として採用する「緊急医師確保対策奨学金」を活用して確保するよう努めています。なお、この奨学金を活用した医師に特定診療科を選択する医師ができており、平成29年度以降、小児科で3名、産婦人科で1名の医師が勤務をはじめています。</p> <p>厚生病院においては、高度急性期・急性期医療を担う地域の中核病院として、地域の病院・診療所では提供が困難な高度医療や救急医療、各種がん医療、周産期医療、小児科医療、災害医療等の分野において中心的な役割を果たすため、医師等必要な人材を確保し、診療体制の充実を努力してまいります。</p> <p>また、厚生病院は中部圏域唯一の地域医療支援病院として、地域の診療所等との医療連携を図ることで、中部において適切な医療サービスが切れ目なく提供される体制の強化に向け取り組んでいるところです。</p>
5	弓ヶ浜海岸護岸工事について (米子市自治連合会)	<p>弓ヶ浜海岸護岸工事については毎年要望をしており、対象地区には必要な取組を継続して実施していただいております。また、弓ヶ浜海岸は昨年度、白砂青松の弓浜サイクリングロードとして、砂浜や松林の中を走る変化に富んだコースが完成し、スポーツや観光の活用のための環境づくりが進められている地域でもあります。</p> <p>白砂青松の美しい景観、優れた自然を守るためには、海岸環境の整備と保全が重要になってきます。海岸は自然と共生する地域住民の憩いの場であり、生活の場です。海岸を利用する人、生活をする人のことを考えての整備が必要です。国民共有の財産でもある海岸を次世代に良好な環境を保ちながら継承していくためにも、総合的な視点に立った海岸の管理及びその充実を図ることが必要と考えます。海岸環境の整備と保全をしていただくことで、地域を災害から守り、安全な生活環境づくりが進むと考えております。今後とも安心できる、安全な海岸づくりを推進していただくよう重ねて要望します。</p>	継続	県土整備部 (河川課)	<p>鳥取県では、平成17年に『鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン』を策定し、海岸の保護・環境・利用に係る共通課題である「砂浜の保全・回復」に対し、関係機関が連携した取組を進めています。</p> <p>弓ヶ浜(皆生海岸)では、国が同ガイドラインに沿って離岸堤等の海岸保全施設整備とサンドリサイクルを併用した侵食対策を行っており、現在、富益地区で人工リーフの改良及び養浜を実施中で、その他地区については、引き続きモニタリングを行いながら必要に応じた対策を検討していくと聞いています。</p> <p>県としては、令和2年3月に「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース」が全線開通し、弓ヶ浜(皆生海岸)の海岸保全の重要性が増していることから、皆生海岸(富益工区等)の海岸侵食対策等を促進いただくよう7月16日に国に対し要望を行いました。</p> <p>今後海岸状況を見ながら最適な対策を実施していただくよう、引き続き国に対して働きかけていきます。</p>